
QA67 主食の米から、少量しか摂取されない香辛料まで、摂取量に関係なく一般食品の基準値を適用するのはどうしてでしょうか

食品区分の設定に当たっては、

- ・ 個人の食習慣の違い（摂取する食品の偏り）の影響を最小限にすることが可能であること
- ・ 国民にとってわかりやすい規制となること
- ・ 食品の国際基準を策定する国際連合食糧農業機関（FAO）と世界保健機関（WHO）の合同会議であるコーデックス委員会などの国際的な考え方と整合すること

を考慮して、食品全体（一般食品）を1つの基準値とすることを基本としました。

また、一般食品の限度値の算出に際しては、主食である米などの摂取も含めたトータルとしての1日平均摂取量を用いています。その際、流通する食品の汚染割合を50%と設定して基準値を計算していますが、仮に、すべての米が100ベクレル/kgの基準値上限（汚染割合100%）で汚染されている想定で線量を計算しても、あらゆる年齢区分で年間1ミリシーベルトを超えません。このため、主食である米に特に厳しい基準値を設定する必要はないと考えています。

出典：厚生労働省「食品中の放射性物質に係る基準値の設定に関するQ&Aについて（平成24年7月5日）」より作成

出典の公開日：2012年7月5日

本資料への収録日：2012年12月27日